

船舶事故等調査報告書

平成22年12月16日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2010門第126号	
事故等種類	運航阻害	
発生日時	平成22年6月22日 16時15分ごろ	
発生場所	大分県大分市関埼灯台から真方位305° 800m付近 (概位 北緯33° 16.3′ 東経131° 53.8′)	
事故等調査の経過	平成22年8月5日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（門司事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報	<p>船種船名、総トン数 貨物船 ^{りゅうほう} 隆邦丸、298トン</p> <p>船舶番号、船舶所有者等 133543、有限会社中松海運</p>	
乗組員等に関する情報	機関長、五級海技士（機関）	
死傷者等	なし	
損傷	なし	
事故等の経過	<p>本船は、船長及び機関長ほか3人が乗船し、鹿児島県枕崎市枕崎港に向け、関埼北西方沖を航行中、平成22年6月22日16時15分ごろ、主機の煙突から白煙が噴出したため、機関長が機関室を点検したところ、主機の過給機（以下「過給機」という。）のエアフィルタから潤滑油が機関室内に漏えいし、過給機出口排気管が赤熱していた。</p> <p>本船は、主機を停止し、近くにあった造船所と連絡をとり、えい航されて造船所に入渠した。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 南西、風力 2、視界 良好</p> <p>海象：波高 約0.3～0.5m</p>	
その他の事項	<p>過給機の潤滑油系統は、主機の潤滑油主管から分岐した潤滑油が、軸受部の潤滑及び冷却を行ったのち、サンプタンクに戻って循環するようになっていた。</p> <p>本船は、潤滑油の漏えい原因が分からず、排気管が赤熱していたので、主機の運転をあきらめて造船所に連絡した。</p> <p>過給機は、潤滑油の出口穴が、硬化したスラッジで閉塞していた。</p> <p>本船は、平成20年3月3日の第一種中間検査において、過給機の開放整備が行われたほか、主機の潤滑油が全量交換されていた。</p> <p>過給機は、第一種中間検査後、潤滑油出口管を触手するなど、適切な点検が行われていなかった。</p>	
分析	乗組員等の関与	あり
	船体・機関等の関与	あり
	気象・海象の関与	なし
	判明した事項の解析	過給機は、本船が関埼北西方沖を航行中、潤滑油出口穴がスラッジで閉塞したため、潤滑油がロータ軸とラビリンスリングのすきまから、ブロワ側及びタービン側の各室内を経由して外部に漏えいしたものと考えられる。

原因	本インシデントは、本船が関埼北西方沖を航行中、過給機の潤滑油出口穴がスラッジで閉塞したため、潤滑油が各室内を經由して外部に漏れ出して排気管が赤熱していたので、主機の運転をあきらめたことにより発生したものと考えられる。
----	--